

日本乳癌学会登録の包括的予後報告 2005 年

阿南 敬生（北九州市立医療センター）

国民や地域住民の癌統計は行政の癌対策活動や医療者の個々の患者さんへの診療に使用される。日本乳癌学会の登録は 1975 年に始まった。2004 年からはウェブ登録に移行し、包括的な個々の患者データが UICC の TNM 分類と WHO 組織分類に従って登録されてきた。本登録の年次報告は乳癌学会ウェブサイトで公表されている。

2005 年登録症例の 5 年予後の解析を報告する。2005 年には 354 施設から 20786 症例が登録された。同年の国立がん研究センターの推定罹患数は 50695 であり、罹患数の約 41% が本登録に含まれる。予後因子解析では生存データが得られた 161 施設よりの 9971 症例で解析をした。患者背景を Table1 に示す。フォローアップの中央値は 60.0 か月 (0.1-60.0 か月)。当時はホルモン受容体のカットオフ値のみならず測定法も標準化されておらず、また術後治療のトラスツマブは保険適応ではなかった。

生存解析結果は概して予想より良いものであった。しかし、本解析のみからその詳細についての言及は避けることが穏当と思われ、複数年の解析を含む次の段階の研究に期待する。癌対策活動は国や地域によって多様である。日本女性の平均寿命は 2012 年で 87 歳であり、数年間継続して最長である。加えて本邦は超高齢化社会で、2013 年の 65 歳以上は全人口の 25% であり最も高い。この乳癌登録の結果は、本邦と同様な人口構造になると予想される国々にとっても重要な情報になると思われた。

図1、2

臨床病期別の無再発生存期間（1）、全生存期間（2）のカプランマイヤー曲線
 （P値はログランクテストを使用して計算）

図1

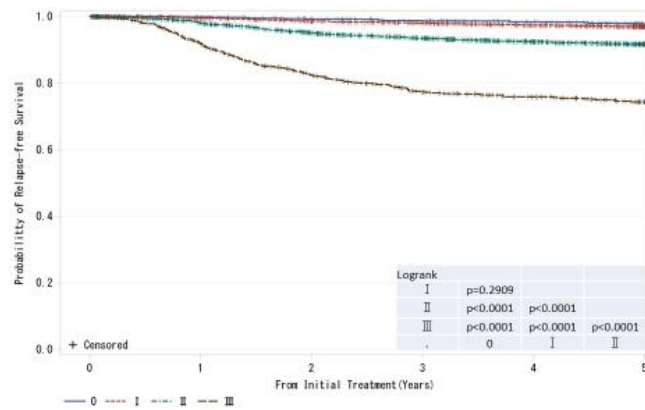


図2

